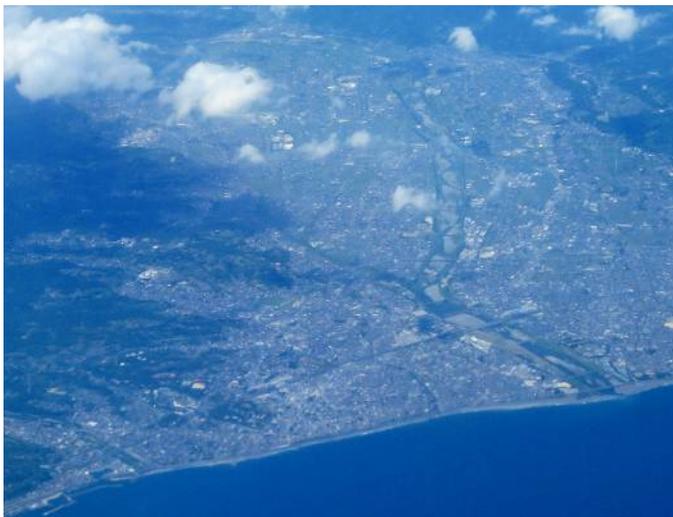


「高知紀行(2)」

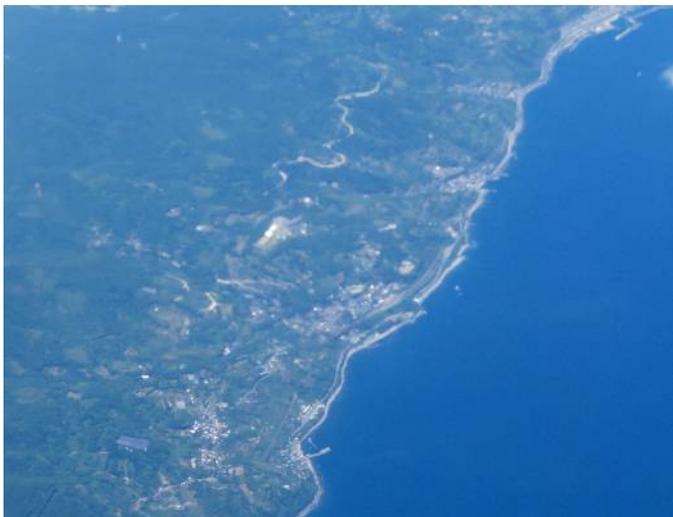
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

羽田発の四国や九州方面に行く航空機の場合、右の窓側に席をとるのが一番良いです。ほとんどの場合、太平洋南岸を飛行するからです。東京湾、相模湾、駿河湾、紀伊半島、四国南岸などの海岸地形がよく見えるからです。地理や地勢に興味がある者にとっては、飛行機での旅行は、単なる移動手段ではなく、地形の観察という目的が加わるのです。



大磯丘陵を過ぎると、小田原の平野が見えてきます。酒匂川(さかわがわ)もはっきり見えます。ジェット旅客機の巡航高度は10,000m前後ですが、よく考えればたったの10km昇っただけで、これだけ広範囲の土地を観察できることに、何度乗っても驚かされます。



小田原の平野を過ぎると、伊豆半島までは広い平地がありません。道路も鉄道も集落も、海岸ぎりぎりにへばりつくように、細長く伸びています



西行き飛行機の機窓風景のハイライトは、何といっても富士山です。この日、伊豆半島以西は雲に覆われた土地が多かったのですが、富士山だけは「頭を雲の上に出して」いました。雪はほとんど消え「白草流し」だけが残っていました。



雲も多彩な表情を見せていました。この雲は、雄大積雲(入道雲)が積乱雲(雷雲)に発達する途中の「塔状雄大積雲」という状態と思われます。



離陸から1時間20分ほどで、高知空港が近づいて

きました。去年の5月に行った石垣島は3時間以上かかったので、高知は近いです！



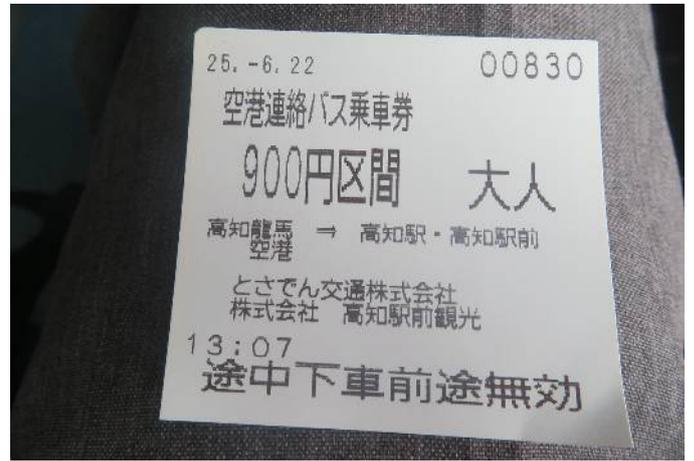
無事に高知空港に到着しました。「高知龍馬空港」という愛称もついています。



13時過ぎのちょっと中途半端な時刻に着いたので、空港の売店で何か食べるものを探しました。



今回は高知出身の同僚と一緒にだったので、「これがいい！」と勧めてくれました。「いなか寿司」というそうです。ネタは魚介ではなく、ほとんど野菜というのが特徴です。かなりキてました。(訳；美味でした)



空港と高知市内は少し離れています。飛行機の到着に合わせて、高速バスがどんどん発車します。900円で高知駅や市内中心部まで乗れます。



バスは観光バスタイプで快適でした。若い運転士さんはとても誠実な方で、接客も非常に丁寧でした。空港で買った「いなか寿司」はというと、高知市内に着く前に、バスの中ですべて消費されてしまいました。



高知市内には、このようなアーケード街が何か所か残っています。高松市内でも見た記憶があります。雨の日でも強い日差しの日でも、ショッピングや食事を楽しめます。日曜日の昼下がりだったので、混雑も一段落して静かな雰囲気でした。